

en-JoY

	代表者	芳川里奈（医学B4年）
構成員	鬼塚悠里（医学B6年） 鈴尾舞子（医学B6年） 岡村菜奈子（医学B5年）	
	小川裕子（医学B4年） 梶間未葵（医学B3年）	
	西尾友里（医学B3年） 岡崎紗世（医学B2年）	
	角村真紀（医学B2年） 川畑早紀（医学B2年）	
	桑田朋子（医学B2年） 田村友里（医学B2年）	
	中島京（医学B2年） 村田真美（医学B2年）	
	森麻里母（医学B2年） 吉弘涼子（医学B2年）	

1. en-JoY の目的

近年、医師不足が叫ばれる一方、女性医師は増加傾向にあります。そんな中女性特有の困難を抱えながらも「医師」としての責任を全うすることが今まで以上に強く求められます。そこで、学生は将来についてどう考えているのか、また現場が女性医師に求めているものは何なのか。en-JoY は学生と現場、双方の架け橋となり医療現場が男女関係なくより働きやすいものとなるように活動しています。

2. 2011 年度上半期の活動

- ①女子医学生インターンシップの手伝い
- ②医師学生交流会
- ③ドクターズキャリアカフェ in 岡山大学病院への参加
- ④日本消化器病学会女性医師・研究者の会への参加
- ⑤九州大学きらめきプロジェクト学生交流会への参加
- ⑥en-JoY Letter の作成（第1号：2月配布、第2号：4月配布予定）
- ⑦en-JoY meeting の開催
- ⑧山口県医師会男女共同参画部会での活動報告

3. 女子医学生インターンシップの手伝い

女子医学生インターンシップは山口県医師会男女共同参画部会が主催の行事で、山口県内の女性医師のもとで女子医学生が1日～1週間研修を行うというものです。今年度は30名の女子医学生が参加しました。en-JoY は女子医学生インターンシップの参加者を集め、説明会を行うなどの準備をしました。インターンシップに参加することで、「実際に女性医師がどのように働いているのかを知ることができた」、「将来について考えるきっかけとなった」、「女性医師から直接話を聞けて良かった」という感想が得られています。

4. 医師学生交流会

毎年行っている、en-JoY のメインイベントである交流会です。今年度は9月24日に、山口大学医学部の霜仁会館で行いました。連休の中日ということもあり、参加者数は例年よりも少ない30名程度（医師・学生合わせて）でした。今年度は山口労災病院副院長の黒川典枝先生、山口大学医学部附属病院第一外科の白澤文吾先生に講演をしていただきました。黒川先生は先生が今まで歩まれてきた道や途中の困難、また医師としてのやりがいについてお話しくださり、女子医学生にとって将来のイメージ像を具体化する機会になりました。白澤先生は男性医師として思うこと、また中でも特に忙しい外科系の講座が女性医師支援として行っている事柄についてお話しくださり、将来外科系に進みたいと考えている女子医学生にとってはとても心強く感じる講演でした。参加した学生からは「とても充実した会だった」という感想があった半面、「参加者が少なすぎる、もったいない」という声もあり、来年度はより多くの学生に活動に興味をもってもらい交流会に参加してもらおうという課題が浮かび上がりました。



写真1 医師・学生交流会（白澤先生の講演）



写真2 医師・学生交流会（黒川先生の講演）

5. ドクターズキャリアカフェ in 岡山大学病院

ドクターズキャリアカフェは今年度初めて行われたイベントです。昨年度、岡山大学でのマスカットフォーラムへの en-JoY メンバーの参加がきっかけとなり、en-JoY と同様の学生グループ「MUSCAT Jr.」が岡山大学医学部の学生の中で発足しました。今回のドクターズキャリアカフェは MUSCAT Jr. と en-JoY の交流を兼ねた行事でした。学生の参加は MUSCAT Jr. から 6 名、関西医科大学から 2 名、en-JoY から 7 名で、岡山県の医師も男女合わせて 10 名程度参加されていました。会の中で en-JoY 構成員からも活動報告を行い、その中で「全国 en-JoY ネットワーク（仮名）」という、全国規模での女子医学生のネットワークの構築を提案しました。en-JoY の活動を山口県で終わらせてしまわないよう、MUSCAT Jr. と交流を深めたいと思います。

6. 日本消化器病学会女性医師・研究者の会への参加

10 月 21 日、2010 年度に引き続き、2011 年度も日本消化器病学会の「日本消化器病学女性医師・研究者の会」に参加しました。本会のテーマは「消化器病学における女性のプロフェッショナリズムの達成をめざして—キャリアの形成・維持・向上のために—」であり、「女性医師へのサポートおよび先輩医師からの助言・苦言」と表して講演が行われ、女性だけでなく男性の先生の講演も多かったことが印象的でした。特に、女性医師は離職せず頑張って働こうではないか、支援を求めるだけでなく男性と女性の働き方をフェアに考えよう、という先輩医師の言葉が強く心に響きました。そして、会の終わりの貴重な時間に、en-JoY として発言する機会をいただき、私達の活動についての紹介や、本学会に参加しての学生としての感想を述べさせていただきました。

7. 九州大学きらめきプロジェクト学生交流会への参加

11月25日、九州大学で行われた学生交流会に参加させていただきました。昨年度はen-JoYの活動紹介をさせていただきましたが、今年度は聴衆として参加し、最後に簡単に発言させていただきました。医師、歯科医師、弁護士といった、九州大学ならではの他職種の方の講演があり、普段の活動とは違った刺激を受けることができる良い機会となりました。また、九州大学の先生・学生だけでなく、福岡県医師会の先生からも声をかけていただき、私たちの活動を全国規模のものにするきっかけをつかむことができました。

8. en-JoY Letter の作成

昨年度の冊子作成を受け、今年度はより気軽な形で学生に情報を提供するというモットーのもと、en-JoY Letter という新聞を作成しました。第1号は今年度1月までの活動報告として茶話会や女子医学生インターンシップについての記事を掲載し、同時に女性医師からのインタビューも掲載しました。記事だけでなくレイアウトやデザインも全て自分達で決定し、初めての試みということも相まって戸惑うことも多々ありましたが、それ以上に自分達のアイデアを存分に表現できる楽しさを実感しました。第2号は4月に配布予定のため、新2年生にも理解してもらえるようにen-JoYの活動紹介についての記事と女性医師インタビューに重点を置き作成しました。



写真3 en-JoY Letter 第1号

9. en-JoY meeting の開催

中間報告において報告した通り、今年度の茶話会は予想よりも参加者が少なく、その反省として「より多くの学生に活動に興味をもってもらい交流会に参加してもらうことが必要である」という意見が構成員の中で挙がりました。これを受け、茶話会よりも気軽に参加してもらうことができ、かつ将来について考えるきっかけとなる会、茶話会につながる会を開催したいと考え、2月20日、en-JoY meeting の開催に至りました。学生が集まりやすい平日の夕方に時間設定したところ、予想を上回る参加があり（医師約10名、学生約20名）、会終了後のアンケート結果からも「気軽かつきっかけづくりとなる会」の開催ができたと認識しています。



写真4 第1回 en-JoY meeting

10. 山口県医師会男女共同参画部会での活動報告

en-JoY は山口県医師会男女共同参画部会とも連携しながら活動を進めています。特に中間報告にて報告した「夏休み女子医学生インターンシップ」はこの部会主催のもと行われています。3月4日に行われた本部会総会において、10分ほど時間をいただき今年度の活動報告を行いました。今後、全国に私たちの活動を知ってもらい、認めてもらえるよう、医師会ともより連携を深めていくことをお互いに確認しました。

11. 今年度のまとめと今後の活動について

今年度は「いかに学生にとって身近な活動という認識をしてもらうか」が焦点となった1年だったと思います。en-JoY としてのまとまりは年々増してきているので、今後はより幅広く学生の理解を得ていくことは重要になると考えられます。来年度は茶話会に加え、en-JoY Letter、en-JoY meeting も定期的な行事、もしくは不定期でも継続的な行事にしていきたいと考えています。また、全国規模の活動とする第一歩として、岡山大学や九州大学の学生とのネットワークの基盤を形成していきたいと考えています。現在考えている可能な活動としてはメーリングリストを作成し、情報交換を密に行うことですが、将来的には各大学で共通のアンケートを行い、大学間の結果の比較検討まで至ることができれば、と思っています。